

## 第3版のはじめに

この「科研費申請書の赤ペン添削ハンドブック」の第2版が発行されてからこの6月（2023年6月）で早くも4年になる。長くはない期間だが、その間、毎年のように科研費の制度や申請書フォーマットの変更が続いた。その「科研費改革」もほぼ完了し、今後、当分の間は申請書フォーマットの変更はないようだ。

今回の改訂の目的は、現在の申請書フォーマットに対応した構成に変えることと、いくつかの新しいcaseを追加することによって、申請書作成の際により使いやすくすることだ。また、新しいcaseの追加だけでなく、既存のcaseにも理系と文系の例文を追加し、理系文系どの分野の申請者にもさらに役立つようにした。姉妹書の「科研費獲得の方法とコツ」とともに使うことで、申請書の作成時により一層参考になることと思う。

科研費制度の大きな改革はほぼ完了したが、まだ効率化する部分は残っており、（遅ればせながら）今後は審査においてもデジタル化の時代になるようだ。一部の種目では令和6年度公募から、審査において従来の冊子体ではなく、PDFファイルをダウンロードしてタブレット等で行うようになる。いずれは全種目がそうなるのだろう。

このように審査はデジタル化されていくのだが、申請書に記載するように求められている内容自体にはなんら変更はない。デジタル化された一部の種目はカラーで審査されるようになるが、審査委員にわかりやすく書くという点で、書く際に気をつけることは同じである。自分の研究内容を審査委員にきちんと評価してもらえるかどうか。ぜひとも科研費を獲得して自分の研究を進めていきたいという研究者のために、本書が役立つことを願っている。

2023年6月

児島将康